

中山間地域での農地中間管理機構を活用した動き

大仙市南外地域(鎌田中袋地区) 集落営農から法人化し農地集積

平成28年8月5日

農事組合法人なんがい中央ファーム
代表理事 佐藤吉男

地区の概要

南外地域のほぼ中央部に位置している稲作地帯。平成20年度に県営圃場整備事業「南外中央地区」が事業採択、平成21年度～23年度に大区画の面工事（整備面積 田78.1ha、畑0.7ha）が実施され農地集積の取組みが始まる。圃場整備事業を契機に集落営農組織に向けての話し合いが行われ、平成19年度から23年度までの間に3つの集落営農組合が設立された。

法人設立までの経緯

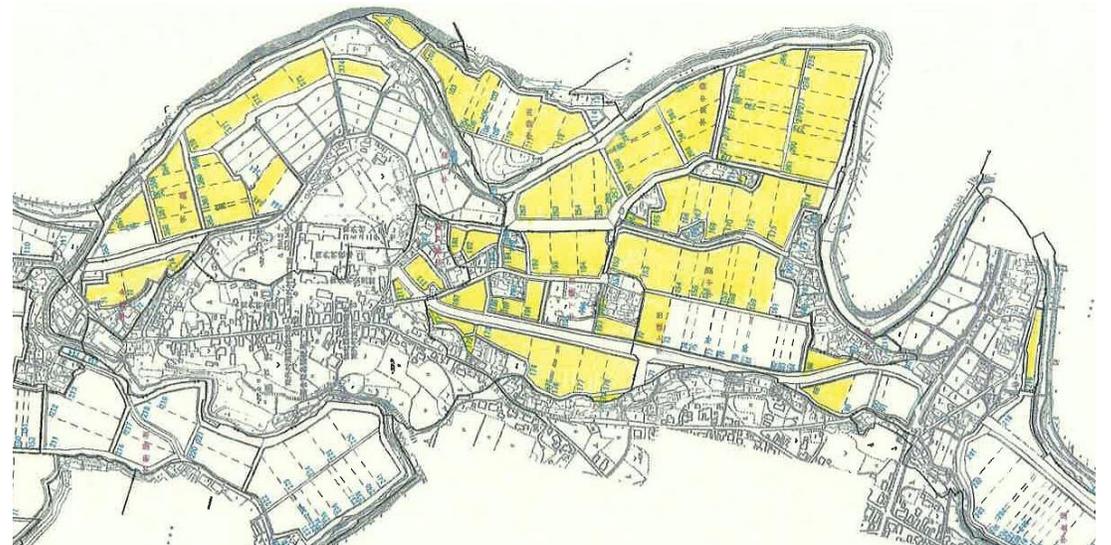
- ◇平成22年7月～ 法人設立に向け受益者との話し合い
- ◇平成23年3月 鎌田中袋集落営農組合設立
- ◇平成24年～ 法人化に向け関係機関からの指導等、組合員の意識調査（アンケート）を実施
- ◇平成28年4月 農事組合法人なんがい中央ファーム設立
- ◇平成28年7月 法人が農地中間管理事業を活用し42.7haを集積

地区内面積

鎌田中袋地区 37.3ha

集積面積 28.7ha

集積率 76.9%



農事組合法人の方針

当地域は農業者の兼業化、高齢化に伴い農業経営を継続する者の減少が著しく農地の受け皿になる組織の設立が急務であった。また、農業をめぐる情勢はますます厳しくなり個人経営ではコスト削減にも限界がある。今後は更なる低コストが求められる中、農事組合法人を設立し生産性の高い農業を目指して地域の担い手となる組織作りを目指す。

農地中間管理事業の活用について

公的機関である農地中間管理機構が貸し借りの中に入ることに
より、賃借料等の支払いに安心感が生まれる。更に租税公課等の
メリットを説明し理解と協力を得ることができた。

取り組みを進める中での課題と対応方策

課題

- 兼業農家が多く、専業農家がごく少数のため労働力の不足
- 出し手農家には受け皿となる持続可能な組織となるか懸念を抱く人もいた
- 若い後継者が少数のため高齢化が進んだときの作業形態

対応方策

- 組合員の役員も地権者への説明をして理解を得た
- 担い手については今までの農業を変えるための勉強会の開催
- 品質管理はもちろんだが消費者ニーズを研究し販売に重点を置いた戦略で、実績をつくる

その他の取り組みのポイント

- 中山間地域のため圃場により条件の違いがあり、日照、排水等圃場の中の適地適作を考え、進めることで安定した経営を目指す。
- 2つの農地・水保全活動組織とも連携を密にし、豊かな自然と環境を守る取り組みを充実していく。

圃場写真 1



圃場写真 2

